

スポーツのチカラ まちのミライ



2030年北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会が実現すると、
私たちの街・札幌はどのような姿へと変貌を遂げるのでしょうか？

東京2020大会ではシティキャストとしてボランティアに従事し、聖火ランナーにも選ばれた佐藤幸子さんにお話を伺いました。

2030札幌冬季オリパラを機に
子どもたちがもつと世界に誇れる街
「SAPPORO」にしたい



東京2020オリンピック聖火ランナー、
札幌市都市ボランティア(シティキャスト)
佐藤 幸子 さん

1952年生まれ、岩見沢市出身。日本スキー連
盟スキー指導員の資格を持ち、フルマラソンを
35回走破したスポーツウーマン。

オリンピック・パラリンピックは
市民も参加できる「スポーツの祭典」

60歳の定年退職を機に、「社会とのつながり
を持ち続けたい」とボランティア活動を始めま
した。札幌市の観光ボランティアをはじめ、
2017年の冬季アジア大会や東京2020
オリンピックでも、ボランティアとして参加し
ました。ボランティアと言うと奉仕の精神ば
かりがクローズアップされがちですが、実際
は新しい出会いや発見、感動があり、単純に自
分自身が楽しいものなんです。なかでもオリパ
ラは、アスリートではない一般市民でも世界規
模のスポーツの祭典に参加できる、またとない
機会。そう思うとワクワクしますよね。

より住み良い街・世界に誇れる街に
進化した札幌の魅力を伝えたい

東京2020大会ではボランティアの他に
聖火ランナーとしても参加予定でした。コロ
ナ禍の影響で道内での聖火リレーは中止と
なりましたが、テレビで札幌の街並みが中継
された時は、胸が熱くなりました。海外の方
とお話すると、シニアの方やウインタース
ポーツが好きな方は1972年の札幌五輪
をご存知で、市民として誇らしく感じます。
しかし、50年の月日が経ち、若い世代の方から
の認知度は今ひとつ。2030冬季オリパラ
が実現したら、国際的な知名度が高まり、子
どもたちが故郷に誇りを持って海外と交流で
きるのではないのでしょうか。大会を機にバリア
フリー化や国際化が進み、より住み良い街・
世界に誇れる街になって欲しい。その時はま
た聖火ランナーに立候補して、進化した札幌
の魅力を世界にアピールしたいです。